令和４年度　第２回熊本市小中一貫教育懇談会（概要版）

「熊本市の小中一貫教育の取組について」令和４年１０月３日（月）１４:００～１５:３０

１　各中学校区の小中一貫カリキュラム・小中一貫校での取組例について

（参加委員の中学校区）

富合中学校区、芳野中学校区、河内中学校区、二岡中学校区、天明中学校区、江原中学校区、楠中学校区

（取組例）

①小中合同研修会

・各中学校区のカリキュラムの柱に沿った小中合同研修会の実施

・各教科、人権学習（LGBTs）、総合的な学習の時間等で講師の講話及び実践共有と今後の授業づくり

②小中合同授業研究会

・小学校が中学校の、中学校が小学校の授業の内容や様子を参観

・中学校の数学の授業を小中学校の先生が参観

③小中一貫教育の教育課程の特例

・小中一貫教育の長所をより生かす観点から、小中一貫教科等の設定等、特例の教育課程の編成についての検討

(例)ふるさと科

小中一貫校における教育課程表（例:新教科「ふるさと科」設定）

小学校	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	特別の教科 道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	ふるさと科	総授業時数
第1学年	296 (−10)	−	136	−	47 (−68)	68	63 (−5)	−	102	−	32 (−2)	−	−	34	72 (+72)	850 (0)
第2学年	305 (−10)	−	175	−	45 (−68)	70	65 (−5)	−	105	−	33 (−2)	−	−	35	77 (+77)	910 (0)
第3学年	240 (−5)	95 (−5)	175	90	−	60	57 (−3)	−	105	−	33 (−2)	35	0 (−70)	35	85 (+85)	980 (0)
第4学年	240 (−5)	83 (−7)	175	102 (−3)	−	60	57 (−3)	−	105	−	33 (−2)	35	0 (−70)	35	90 (+90)	1015 (0)
第5学年	170 (−5)	94 (−6)	175	101 (−4)	−	50	47 (−3)	60	90	70	33 (−2)	−	0 (−70)	35	90 (+90)	1015 (0)
第6学年	170 (−5)	99 (−6)	175	101 (−4)	−	50	47 (−3)	55	90	70	33 (−2)	−	0 (−70)	35	90 (+90)	1015 (0)
計	1421 (−40)	361 (−24)	1011	394 (−11)	92 (−112)	358	336 (−19)	115	597	140	197 (−12)	70	0 (−280)	209	594 (+504)	5785 (0)

中学校	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	技術・家庭	保健体育	外国語	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動	ふるさと科	総授業時数
第1学年	135 (−5)	100 (−5)	140	97 (−5)	45	63 (−2)	70	105	140	33 (−2)	0 (−50)	35	70 (+70)	1015 (0)
第2学年	135 (−5)	100 (−5)	105	145	35	33 (−2)	70	105	140	33 (−2)	0 (−70)	35	84 (+84)	1015 (0)
第3学年	100 (−5)	135 (−5)	140	140	35	33 (−2)	35	105	140	33 (−2)	0 (−70)	35	84 (+84)	1015 (0)
計	370 (−15)	335 (−15)	385	379 (−5)	115	129 (−6)	175	315	420	99 (−6)	0 (−190)	105	238 (+238)	3045 (0)

(例)コミュニケーション科

小中一貫校における教育課程表（例:新教科「コミュニケーション科」設定）

小学校	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	特別の教科 道徳	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	コミュニケーション科	総授業時数
第1学年	300 (−6)	−	132 (−6)	−	100 (−2)	68	68	−	102	−	34	−	−	34	12 (+12)	850 (0)
第2学年	310 (−6)	−	170 (−6)	−	103 (−2)	70	70	−	105	−	35	−	−	35	12 (+12)	910 (0)
第3学年	238 (−7)	90	170 (−5)	90	−	60	60	−	105	−	35	35	70	35	12 (+12)	980 (0)
第4学年	238 (−7)	90	170 (−5)	105	−	60	60	−	105	−	35	35	70	35	12 (+12)	1015 (0)
第5学年	170 (−5)	97 (−3)	173 (−2)	105	−	50	50	60	90	68 (−2)	35	−	70	35	12 (+12)	1015 (0)
第6学年	170 (−5)	102 (−3)	173 (−2)	105	−	50	50	55	90	68 (−2)	35	−	70	35	12 (+12)	1015 (0)
計	1426 (−35)	379 (−6)	988 (−23)	405	203 (−4)	358	358	115	597	136 (−4)	209	70	280	209	72 (+72)	5785 (0)

中学校	国語	社会	算数	理科	音楽	美術	技術・家庭	保健体育	外国語	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動	コミュニケーション科	総授業時数
第1学年	135 (−5)	102 (−3)	138 (−2)	105	45	45	70	105	135 (−2)	35	50	35	12 (+12)	1015 (0)
第2学年	135 (−5)	102 (−3)	103 (−2)	140	35	35	70	105	138 (−2)	35	70	35	12 (+12)	1015 (0)
第3学年	100 (−5)	137 (−3)	138 (−2)	140	35	35	35	105	138 (−2)	35	70	35	12 (+12)	1015 (0)
計	370 (−15)	341 (−9)	379 (−6)	385	115	115	175	315	416 (−6)	105	190	105	36 (+36)	3045 (0)

この後、それぞれの中学校区の現状、取組例の3つの視点についての意見を、各委員から述べていただいた。

（議事録参照）

意見交換のまとめ

それぞれの中学校区の取組の方向性が見えてきた。

小中一貫校の教育課程の特例を活かした新教科を設置することが子供にとっても教師にとってもどういう効果があるのか、具体的な検証の視点を明らかにしながら協議を続けることが重要である。

今後も、子供のニーズや地域のニーズに合わせた形で進めていくべきである。

地域のアイデンティティを大切にし、特例を活かし、現在実践していることを上手にカリキュラムに編成していくことが持続可能な教育課程の開発につながっていく。